

校長通信「学ばん共に」

その1 希望輝く可美の学舎を目指して

(2022/4/1)



3月26日 中庭の桜が満開

校歌の歌詞にある「希望輝く ^{まなびや}可美の学舎」に近づくために、以下の10点を教職員全員が心にとめて、学舎づくりを一歩一歩進めてまいります。

- 1 「それぞれの持ち味を生かす」…経験・得意分野・性格・特技・趣味等、得意に帆を揚げるスタイルで、可美中教職員・教育支援者全員で力を合わせて取り組む。特に困難に対しては、チームプレーでのぞむ。
- 2 「学校の大黒柱は授業」…魅力ある授業にこそ夢や希望を育む源がある。「確かな学び」を土台に「主体的・対話的で深い学び」に到達するよう、日々の授業改革を進める。授業のねらいを明確にし、活動重視の授業展開(アウトプット5割以上)を目指す。キャリア教育の4つの力「か・み・え・み(可美笑み)」を意識した授業づくりに取り組む。
- 3 「情を持って接する 思いを持って導く(情接思導)」をあらゆる教育活動の基本的スタンスとする。生徒の話に真剣に耳を傾け、言葉を選んで目を見て話す。生徒が知らないことは丁寧に教え、できないことは努力を認めて励ます。してはいけないことは愛情をもって叱る。感情的に怒らない。「距離感を大切に接する」「人間味のある言動」

- 4 「前を向かせる教師」…生徒一人一人のよさをとらえ、どの生徒も学校に居場所を感じ、自分のこれからの夢や希望を抱けるような働きかけを行う。担任からの日記ペン入れ。校長企画「夢レポ」「夢カード」を教職員と協力して進める。
- 5 「形を大切にした生徒指導(あいさつ・礼儀・聞く姿勢・整理整頓・物の管理等)」を粘り強く行う。生徒の近くに教師がいる。あいさつや返事は時を逃さない指導で必ず変わる。ただし、形に頼りすぎない、良好な人間関係づくりを進めつつの指導とする。★「あいさつ運動協力校(R4-5)」
- 6 「感動ある行事」では、縦割りを生かして生徒の心に火をつける。行事の中で、バランス感覚のあるリーダーや、失敗を恐れないインフルエンサーを育てる。「あこがれる先輩」「なりたい自分」特に学年行事(修学旅行・野外活動)は、生徒の主体性を生かしつつ、中学校生活を輝かせる実りある思い出になるよう職員集団の英知を集めて企画・運営する。
- 7 「夢中になる部活動」では、「求めて学び、自ら耐えて鍛える」場面を設定し、克己心・忍耐力・主体性・おもいやりなど、人としての成長を促すことを第1の目標とする。「大会・コンクールに向けた段階ごとの目標設定」「練習方法の工夫」
- 8 「ひらかれた学校」にするために、情報発信の日常化(学年・学級通信、ブログ、掲示、さくら連絡網など)やCS活動の積極的推進によって、地域・保護者に信頼される学舎をめざす。
★**ブログUP回数…R3: 147 (R2: 159)**
- 9 「制服の検討」や「校則等の見直し」を進め、多様性を受け入れ、自治的活動を大切にする学校風土を醸成する。令和5年度からの新しい制服導入をめざす。
- 10 「報告・連絡・相談」を密に行い、「ソラ(事実)・アメ(解釈)・カサ(判断)」の思考で、行事企画や生徒指導にあたる。(可美中学校長 北村健治)